

平成31年2月5日(火)

東京での学生生活

東京での学生生活で大切なことは、住んでいる街に慣れ始めたら、いろいろな街に出かけていき、様々な施設(図書館、美術館、記念館、公園、遊園地、動物園等)に出かけていくことがおすすめです。特に、お金をかけないで、自分の足でできるだけ歩くことにより、東京という町の作りがわかり、東京という場所と環境がわかります。

東京に限らず、その町のありようを確かめるには、歩くことや自転車で回ることがおすすめです。

東京は、坂の町です。山の手と下町のつなぎ目に坂が必ずあります。日本橋から、神田まで抜けるのには、約2,3キロの距離であり、そこから神保町や九段下を通過して、飯田橋まで進み、神楽坂から早稲田に抜け、護国寺雑司ヶ谷を通過して池袋まで歩いたとしても、10キロぐらいで、2時間も歩けば優に歩くものです。その道筋においても様々な坂があります。この道筋だとのぼりがきついところばかりですけれど。

音羽の坂からお茶大のほうに抜けて、小石川の植物園や、白山から本郷を通過して上野不忍池まで歩いても、1時間程度。

ある時など、渋谷から青山通りを神宮外苑に抜け、新宿歌舞伎町まで歩いたこともありましたが、神宮外苑までいかず、青山通りを日枝神社のわきから日比谷高校にのぼり、国会議事堂脇を抜け、桜田門を通過して東京駅まで行ったこともありましたが。

東京に限らず、つい先日、吹奏楽の全国大会においても、名古屋の国際会議場に行く前に、熱田神宮でお参りしたのち、東海道53次の唯一渡し船になっている熱田から桑名までの「七里の渡し」の宮の宿の渡し場を発見したのも、同窓会長と副会長並びに同窓会館長とそぞろ歩きの果ての発見がかぎとなりました。京都ならなおのこと、町全体を右往左往しているうちに全容がわかっていく仕掛けになっております。

金沢や仙台、福島も会津若松も、川による扇状地と河岸段丘によって作られた町ですし、盛岡にしても札幌にしても、歩けば歩くほど町が透いて見えてくる仕掛けです。

大阪は、歩いても歩いても限りがなく、どこに行っても人が仰山おるのでびっくりです。奈良も伊勢も、神戸も広島も、博多だって鹿児島だって、歩くことがまず第一であると考えます。

就職の面接時には、東京の町の中だったらどこでも歩けますと言ったら、絶対内定一番になると思いますが、いかがでしょうか。